

一九九二年二月二五日
発行刷



第75巻 第1号

史学・地理学・考古学

論 説

- 近代日本の青年団体……………飯 塚 一 幸 (1)
——京都府丹後地域を事例に——
桓温から謝安に至る東晋中期の政治……………金 民 壽 (42)
——桓温の府僚を中心として——

研究ノート

- 天孫降臨神話について……………安 藤 美 紀 (77)
帝国のなかのニューファンドランド……………和 田 光 弘 (99)
——漁業と植民——

書 評

- 本田実信著『モンゴル時代史研究』……………勝 藤 猛 (119)
川北稔著『民衆の大英帝国
——近世イギリス社会とアメリカ移民——』……………秋 田 茂 (127)
Steven Tibble, *Monarchy and Lordships in the
Latin Kingdom of Jerusalem, 1099-1291* ……………八 塚 春 児 (133)

紹 介

- Wieland Wagner, *Japans Außenpolitik in der frühen Meiji-Zeit
(1868-1894). Die ideologische und politische Grundlage des
japanischen Führungsanspruchs in Ostasien* (竹中亨)

史 学 研 究 会

京都大学文学部内

もっとも、著者は日本での侵略主義の歴史の連続性や社会的浸透力の強さを強調するあまり、とどころで牽強付会に陥っている節がないではない。また、この時期について、天皇制イデオロギーの役割を甚だ強調するのも、必ずしも首肯できないところである。

本書は、著者独自の解釈が前面に強く出た研究となっている。本書は、このテーマについての準拠枠を提供したいという、いわば研究戦略的考慮から、意識的に一次史料の利用は控え、膨大な日本語二次文献を素材とする方法をとっている。詳細な個々の史実に拘泥するよりも、荒削りでも、まずとにかく全体像の定立を必要と考えたためである。こうした方法的姿勢は外国史研究としては、それなりに評価できるものをもってしよう。したがって本書は、実証的には当該のテーマに新たな知見をもたらすものではない。しかし、とにかく一つの全体像を立てようとする試みとしては興味深いものとなっている。

(三六二頁 一九九〇年 F. Steiner Verlag)

(竹中亨 東海大学助教授)

日本学術会議だより

— No.23 —

平成三年一月 日本学術会議広報委員会

日本学術会議は、このたび開催した第一一三回総会において、第一五期活動計画と新しい特別委員会の設置を決定しましたので、その概要をお知らせいたします。

◇第一五期活動計画

日本学術会議は、創設以来、科学者や学術研究団体との連携の下に、その目的・職務の遂行に努力し、我が国の学術研究体制の整備についての重要な催告等を行い、研究所の設立などを含めて数々の業績を挙げってきた。また、数多くの国際学術団体との連携・協力、国際学術協力活動への参加など世界の学界と提携しつつ学術の進展に貢献してきた。しかしながら、創設後四〇有余年を迎えた現在、学術を取り巻く状況は、国際的にも国内的にも著しい変化を生じた。このような状況を踏まえて、第一五期日本学術会議は、本会議の創設以来の基本的精神を引続き堅持しながら、変動の激しい内外情報に対応して、なお一層の成果を挙げべく努力する。

日本学術会議は、学術に関する重要事項を自主的に審議し、我が国の学術研究の在り方についての方策を立案し、学術研究の成果を行政、産業及び国民生活に反映浸透させることを使命としている。このため、会員の科学的知見を結集し、時代の要請に即応しつつ将来を見通し、以下の視点から学術研究の一層の推進を図る。

人文・社会及び自然科学を網羅した日本学術会議は、全学問的視野に立ち、学術研究団体を基盤とする科学者の代表機関であることを認識して、全科学者の参加と意見の集約を図らなければならない。さらに、本会議が集約した科学者の意見を速やかに政策の形成に反映させるようにすべきである。特に学術政策については、他の関係諸機関との連携を強化し、その実現を図る。

また、学術研究団体を基盤とする日本学術会議は、関係ある学術研究団体等から推薦された科学者を中心として構成される研究連絡委員会の重要性を認識し、その活動を強化するとともに、学術研究団体との連絡を密にし、研究基盤の強化を図り、高度化する学術の発展に貢献する。

我が国の科学者を内外に代表する機関で

ある日本学術会議は、国際社会における我が国の地位の向上に照らし、海外諸国の期待と時代の要請にこたえて、学術の分野における国際貢献に積極的な役割を果たすべきである。

日本学術会議は、真理探求という基本理念に立脚し、国民とともに学術の在り方を考え、同時に学術の国際性を重視するものである。そのためには、学術の健全な発展に向けて、学問・思想の自由の尊重と研究の創意への十分な配慮の下に、長期的かつ大局的な視点に立ち、創造性豊かな研究の推進に勉める。

科学が文化国家の基礎であるという確信に立ち、日本学術会議は、科学者の総意を代表してその精神を高揚したい。即ち、二一世紀に向けての学術体制及び研究・開発の望ましい在り方を抜本的に検討し、我が国の学術政策に指針を与えることにより、国民の期待にこたえるとともに、人類の福祉と世界の平和に貢献することを期するものである。

一、重点目標

(以下略)

『史林』投稿規定

本誌の投稿規定は次の通りです。

◇資格 本学会員であること。

◇投稿受付原稿の種類、長さ

○論説 四〇〇字詰八〇枚以内

○研究ノート 四〇〇字詰五〇枚以内

○研究動向 四〇〇字詰五〇枚以内

○書評 四〇〇字詰二〇枚以内

○紹介 四〇〇字詰三枚程度

◇論説には四〇〇字以内の「要約」と「英文要約」を添付のこと。

◇研究ノート・研究動向・書評には、「英文タイトル」のみ添付のこと。

◇注は各章末に入れること。
送り先 史林編集委員会

千六〇六 京都市左京区吉田本町

京都大学文学部内

御注意

図表、あるいは特殊活字を掲載する場合には、その印刷経費の一部を負担していただくことがあります。

編集後記

ソ連崩壊後の新世界秩序における日本の役割が取り沙汰されるこの頃ですが、いかにお過ごしでしょうか。七五巻一号をお届け致します。

相変わらずの二箇月遅れにて、執筆者はじめ会員各位に大変御迷惑おかけしておりますこと、先ずはお詫び申し上げます。誌面充実のため審査が厳格でなかなか原稿が揃わないためでもあります。窮状お酌み取りの上、何卒御寛恕下さいませ。(雅)

本誌には文部省科学研究費補助金研究成果公開促進費が交付されております。

一九九一年二月二五日印刷 定価二二〇〇円
一九九二年二月一日発行 送料五二円

史林 第七五巻第一号(通巻第三七二号)

京都市左京区吉田本町
京都大学文学部内

発行人 史学研究会

理事長 竺沙雅章
振替京都七五一五五番

印刷所 中村印刷株式会社
京都市下京区七条御所ノ内中町五〇

THE SHIRIN

or the

JOURNAL OF HISTORY

Vol. LXXV No. 1 January 1992

CONTENTS

Articles :

- IZUKA Kazuyuki: The Young Men's Association in
Modern Japan (1)
—The case of the Tango area in Kyoto Prefecture—
- KIM Minsoo: Huan Wen, Xie An and Politics in the Eastern Jin..... (42)
—Concentrating on the Staff Officers of Huan Wen—

Notes :

- ANDO Miki: Concerning *Tenson-korin* Myth (77)
- WADA Mitsuhiro: Newfoundland in the Old Colonial
System: Fishery and Settlement (99)

Book Reviews :

- HONDA Minobu: *Historical Studies on the Mongol Domination*
(KATSUFUJI Takeshi) (119)
- KAWAKITA Minoru: *The British Empire for the Common*
People (AKITA Shigeru) (127)
- Steven Tibble, *Monarchy and Lordships in the Latin Kingdom*
of Jerusalem, 1099-1291 (YATSUZUKA Shunji) (133)

Miscellaneous :

Published

by

THE SHIGAKU KENKYUKAI

(The Society of Historical Research)

Kyoto University, Kyoto, Japan

ISSN 0386-9369